

経営比較分析表（令和5年度決算）

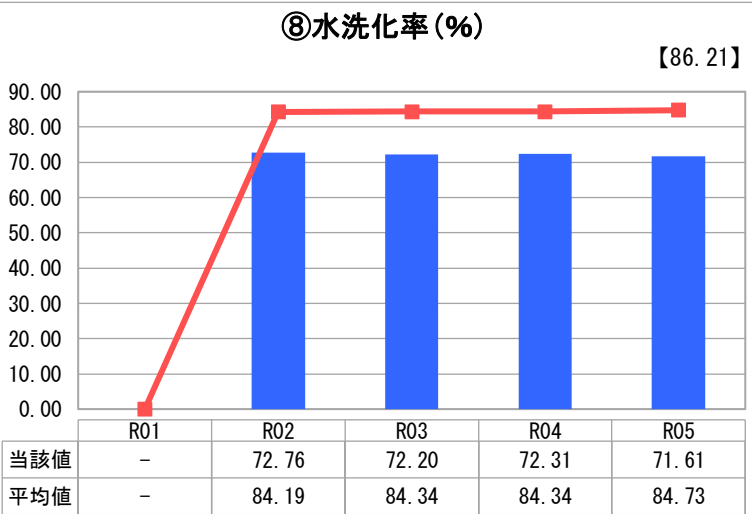
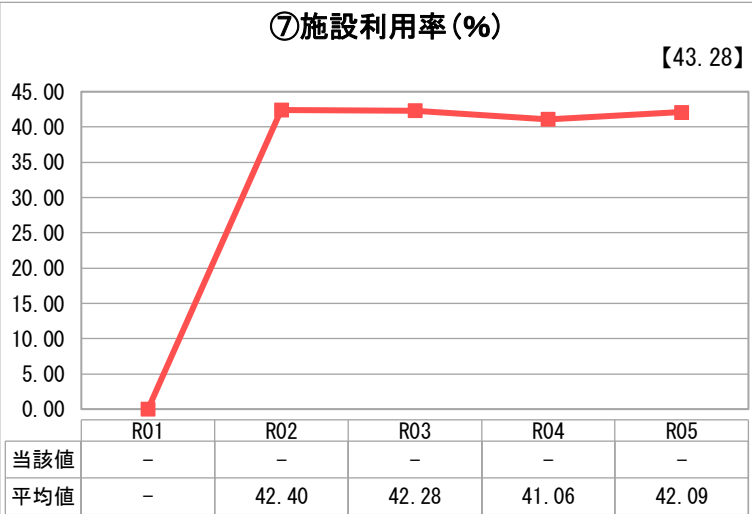
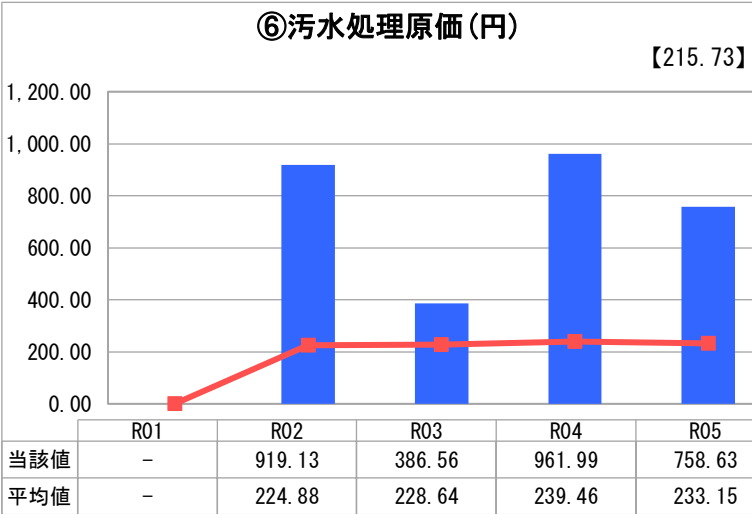
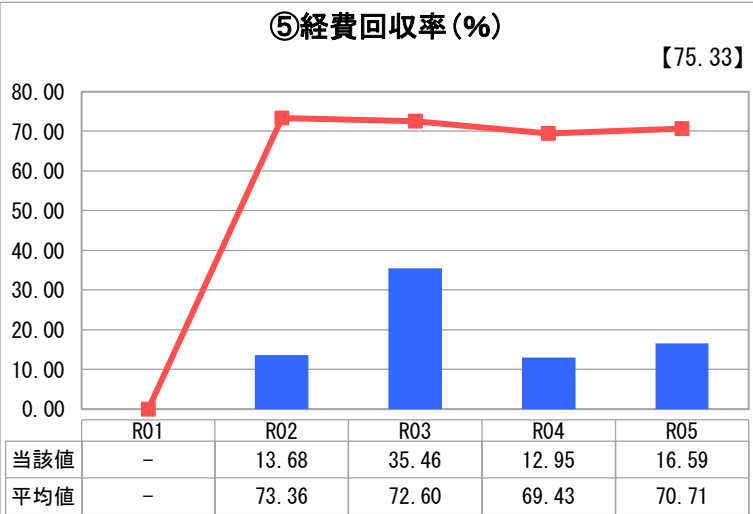
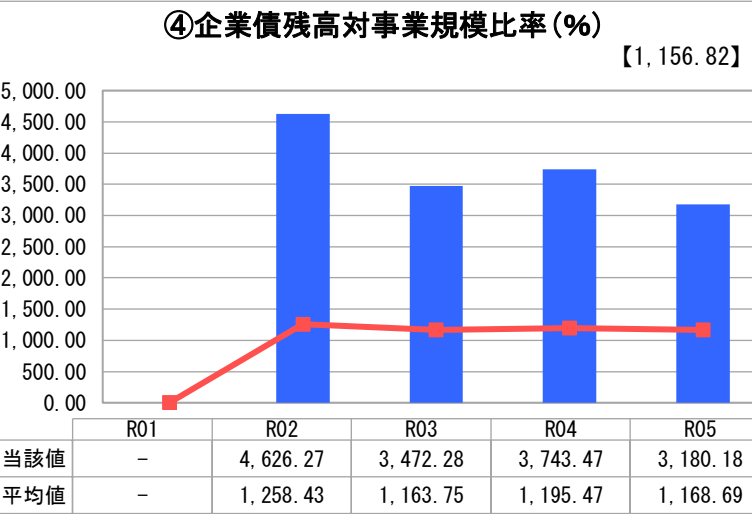
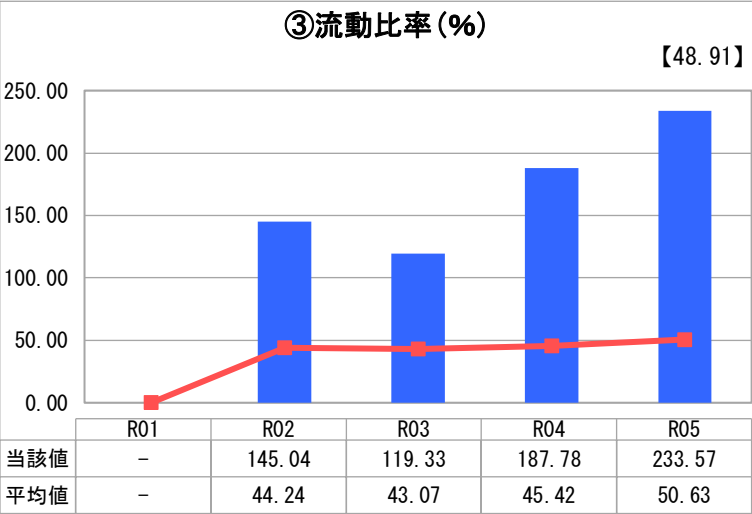
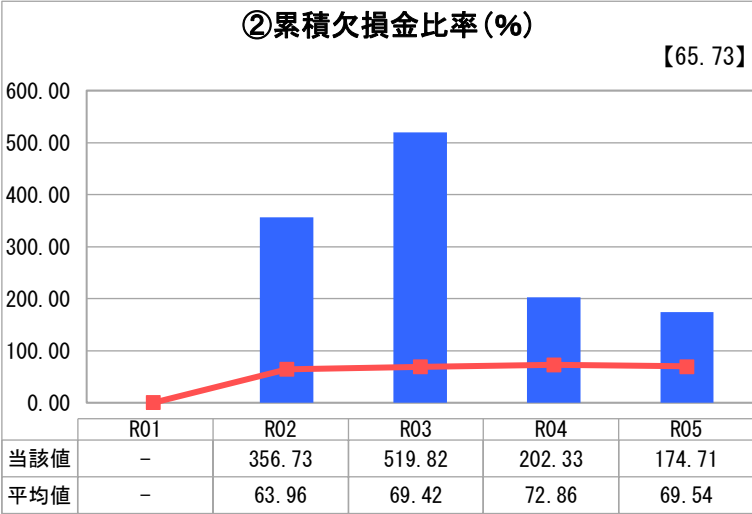
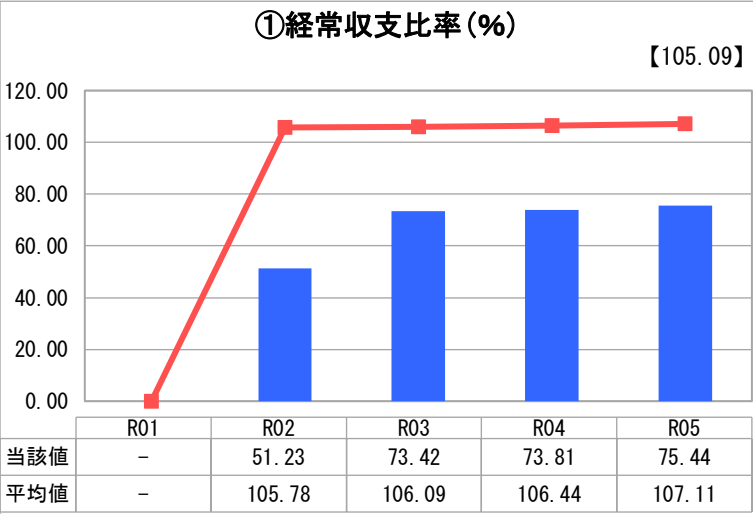
千葉県 栄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	45.29	2.39	81.94	2,550

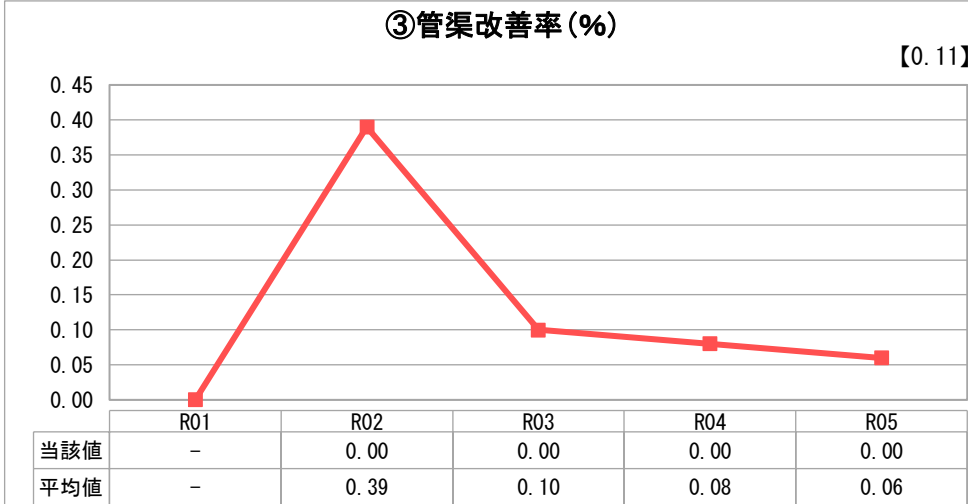
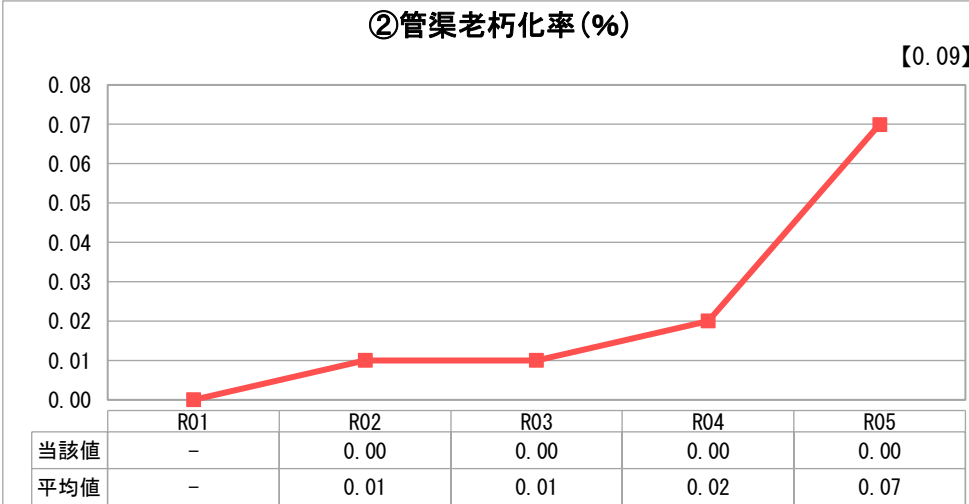
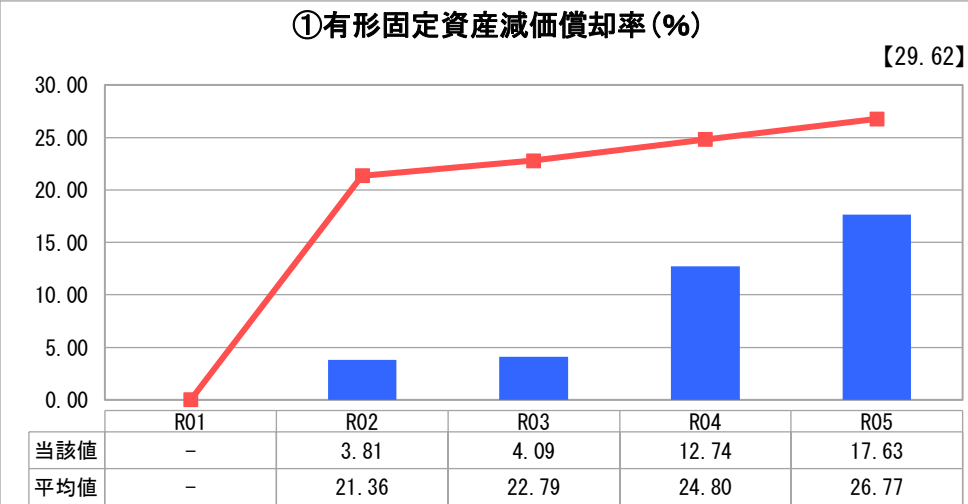
人口（人）	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,842	32.51	610.34
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
472	0.44	1,072.73

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、水洗化率が70%台であり営業収益が低く、今後も100%を下回る状況が続くと予想されます。

②累積欠損金については、前年度と比較すると欠損金が減少し、営業収益が増加したので比率は、下がっています。

③流動資産については、事業費用に対する現金保有高が高く、今後も100%を上回る状況が続くと予想されます。

④企業債残高対象事業規模比率については、事業が休止状態で企業債が増加することはないことから、今後も企業債残高は減少すると予想されます。

⑤経費回収率については、下水道使用料が増加し、汚水処理費が減少したことから前年度より回収率が上がっています。

⑥汚水処理原価については、汚水処理費の減少により前年度より下がっています。

⑦施設利用率については、事業数は2つあるが処理場は1箇所のため0となっています。

⑧水洗化率については、未接続世帯に下水道への接続を促し、水洗化率の向上を図ります。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、当町特定環境保全公共下水道事業は、平成11年度供用開始から25年を経過し、現在、事業を休止しているので法定耐用年数に近い資産が多いことから、今後も増加することが予想されます。

②管渠老朽化率については、法定耐用年数を経過した管渠はありませんので0%となっています。

③管渠改善率については、前年度に引き続き管渠の更新・改良はありませんので0%となっています。

全体総括

当町の特定環境保全公共下水道事業は、人口減少に伴う使用料収入の減少や維持管理費等の増加による汚水処理減価の高騰が予想され、将来的には、経常収支比率及び経費回収率の悪化が見込まれるため、経費の増加を見込み使用料改定を検討する必要があります。

また、経営戦略等により、更なる経営の健全化・効率性に努めつつ安定した下水道事業経営に取り組んでいきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。